

	教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と 新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築 東浦町SP通信 ～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、 「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～	第1号 2021年4月26日 編集 緒方 なな 東浦町教育委員会 SPコーディネーター
---	---	---

森岡小学校 牧野SPとの出会い

4月21日、昨年度から森岡小学校で活動している牧野SPに会いに行ってきました。会いに行く前は、「緊張します！」と連絡をくれていましたが、実際に会った時にはスッと近寄って、挨拶に来てくれました。明るく、さわやかに話してくれる牧野SP。話していると、こちらの心も温くなる、そんなSPさんでした。きっと、森岡小学校の子どもたちからも慕われているだろうなと、すぐにそう思いました。

「実際の現場はとても勉強になります。養護教諭を目指しているのですが、特別支援学級や通常のクラスだけではなく、保健室でも活動させてもらっています。」と話してくれました。大学での勉強ももちろん大切ですが、現場感覚は机上では分かりません。身に付きません。牧野SPは肌でそれを体感し、SP活動を続けてくれているのだと思います。

森岡小学校の教頭先生が、「本当に学校のパートナーのような感覚です。責任感を持って取り組んでくれているので、とても助かります。」と話してくださいました。学校現場では迷いや不安の連続だと思います。「どうしたらいいのだろう？」「どういう声をかけたらいいのだろう？」そんな疑問が頭に浮かぶ度に、真摯に、誠実に考えて、活動してくれているのでしょう。教頭先生のお話を聞いて、感謝の気持ちとうれしい気持ちでいっぱいになりました。

特別支援学級で活動している様子を見せていただきました。素晴らしかったです。児童にしっかり寄り添っていました。児童も安心して勉強している様子でした。目を見て話す、前ではなく横に座る、ポジティブな励ましの声掛けをする、そして優しい笑顔……。小さなことですが、大切なことです。信頼関係を築く上で、欠かせないことです。それが自然に、スムーズに出来ることがすごいと思いました。どこで身に付けたかは分かりませんが、きっと昨年度から活動する中で洗練されてきたのだと思います。継続して活動するウィークリーSPをしているからこそその関わり方なのでしょう。新任でこんなに子どもにスムーズに接してくれる先生がいたら、子どもも安心して学校に来られると思いました。

活動記録も読ませていただきました。びっしり、しっかり書いてくれていました。(森岡小の先生からコメントもいただいていた。学ボラにここまでしてくれる学校もあまりないのでは……？素晴らしい関係性だと感動しました。)

「他の学校で活動しているSPさんとも話してみたいです！」と、キラキラした、そして「もっと学びたい！」というやる気に満ちた目で話してくれました。こんな素晴らしいSPさんとお会えたことがうれしいです。今年度もよろしくお願いいたします。

